

速報版

放課後の 生活時間調査

子どもたちの時間の使い方 [意識と実態]

子どもたちは、
時間をどのように
使っているのだろうか。
また、どのように使いたいと
思っているのだろうか。

- ・ 学校段階による睡眠時間や学習時間の変化は？
- ・ 習い事・部活動・アルバイトの時間は？
- ・ 子どもたちが増やしたい時間やストレスは？
- ・ 将来に対する子どもたちの期待は？

Benesse教育研究開発センターでは、2008年11月に、全国の小学5年生から高校2年生までを対象にした生活時間調査を実施しました。この速報版では、ふだんの生活の実態、時間に関する意識について、特徴的なデータを取り上げてご紹介します。

調査概要

■調査テーマ

小学生・中学生・高校生の生活時間の実態と意識に関する調査

■調査方法

郵送法による自記式質問紙調査

■調査時期

2008年11月10日(月)～14日(金)

■調査対象

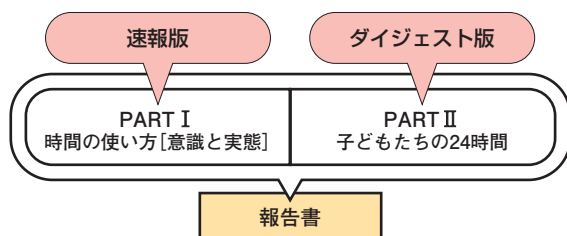
全国の小学5年生～高校2年生 合計8,017名

	小学生		中学生			高校生		合計
	小5生	小6生	中1生	中2生	中3生	高1生	高2生	
配布数(名)	3,672	3,675	3,672	3,674	3,674	3,674	3,675	25,716
有効回収数(名)	1,339	1,264	1,243	1,183	1,166	948	874	8,017
	2,603		3,592			1,822		
有効回収率(%)	35.4		32.6			24.8		31.2

※調査対象者は、全国の小学5年生～高校2年生のリストに基づいて無作為に抽出した。

■調査の枠組み

本調査は、アンケート形式の設定問に回答してもらう部分(PART I)と、平日24時間の生活を15分単位で記入してもらう部分(PART II)から構成されている。このうち、PART Iの結果を本速報版にまとめた。



■調査項目

[意識と実態]

ふだんの生活時間/習い事/学校外の学習機会/学習塾の利用/部活動(中・高校生のみ)/アルバイト(高校生のみ)/増やしたい時間/楽しい時間・つらい時間/時間のすごし方/時間の使い方の点数(自己評価)/家族と決めている時間のルール/1年間にすること/将来について/日本社会について/心や身体の疲れ/成績の自己評価/希望する進学段階など

■分析にあたって

①本文中では、小学5年生を小5生、小学6年生を小6生、両者を合わせて「小学生」と表記している。中学生、高校生も同様に、中1生、中2生、中3生を合わせて「中学生」、高1生、高2生を合わせて「高校生」と表記している。

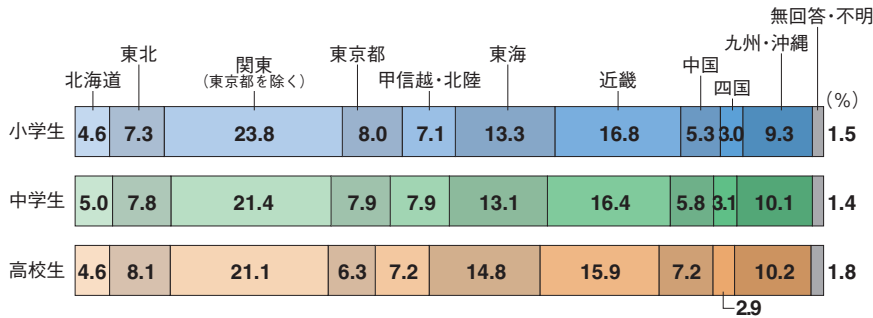
②郵送法による調査であるため、調査対象には、小学校、中学校、高等学校に在学していない子どもがわずかに含まれている可能性があるが、合わせて小学生、中学生、高校生として分析している。

③本文中の「人口規模」は、回答者が居住する市区町村の人口規模を指し、回答者が回答した都道府県・郡市区・町村名により人口を特定・算出している(総務省統計局編『統計でみる市区町村のすがた2008』(財)日本統計協会、2008年の人口データを使用)。なお、区分は以下のように設定した。

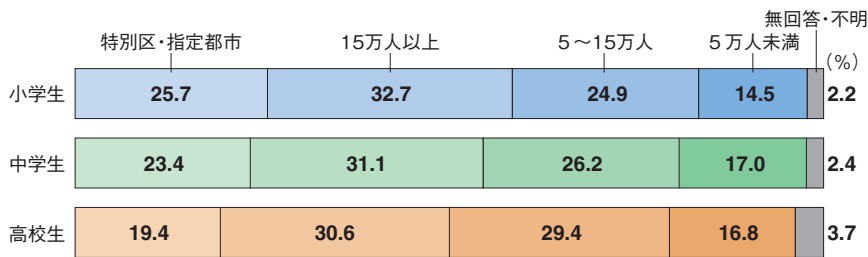
- 「特別区・指定都市」……特別区(東京23区)および2008年11月現在の政令指定都市17市(札幌市、仙台市、さいたま市、千葉市、川崎市、横浜市、新潟市、静岡市、浜松市、名古屋市、京都市、大阪市、堺市、神戸市、広島市、北九州市、福岡市)
- 「15万人以上」…特別区・指定都市を除いた人口15万人以上の市町村
- 「5～15万人」…人口5万人以上15万人未満の市町村
- 「5万人未満」…人口5万人未満の市町村

回答者の基本属性

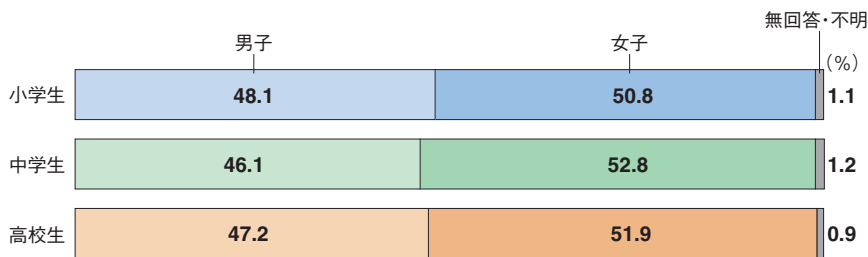
居住地域（地方別）



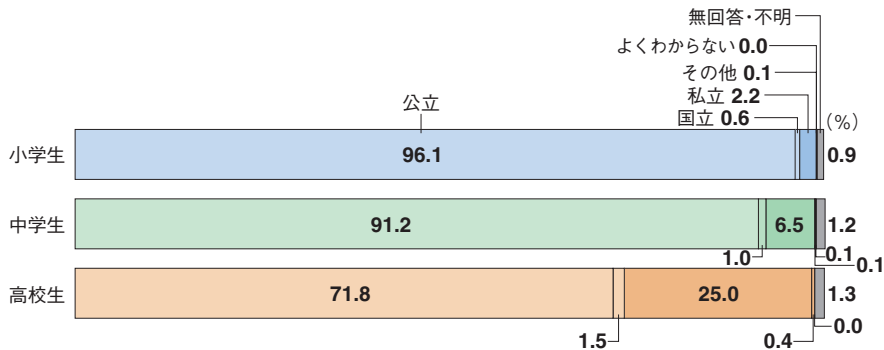
居住地域（人口規模別）



性別



通っている学校の種類



目次



1. 放課後の生活



2. 基本的な生活時間



3. 小・中・高校生の 特徴的な生活時間



4. 時間に関する意識



5. 将来の生活

1. 放課後の生活

学校段階により時間の使い方が異なる

放課後の時間の使い方は、学校段階とともに変化している。また、中学生は学年による変化が大きく、受験のための勉強や部活動の有無が影響していると考えられる。一方、同じ学校段階の子どもでも、性別や居住地の人口規模により、時間の使い方に違いがみられる。とくに差が大きいのは、中・高校生の「友だちとすごす」時間や「メディア」の時間などである。

表 1-1 小学生の生活時間(1日あたり・平均時間)

		page6	page8・9	page10	page11	page12・13	page14	page15
		睡眠	学習	外遊び・スポーツ	友だちとすごす	メディア	習い事	学習塾
全体		8時間29分	1時間11分	45分	1時間52分	3時間31分	35分	17分
学年別	小5生	8時間36分	1時間07分	45分	1時間46分	3時間17分	35分	12分
	小6生	8時間21分	1時間15分	44分	1時間58分	3時間47分	35分	21分
性別	男子	8時間33分	1時間06分	54分	1時間49分	3時間27分	40分	18分
	女子	8時間25分	1時間16分	37分	1時間55分	3時間36分	30分	16分
人口規模別	特別区・指定都市	8時間29分	1時間19分	51分	1時間53分	3時間31分	32分	27分
	15万人以上	8時間29分	1時間10分	46分	1時間49分	3時間32分	35分	16分
	5～15万人	8時間26分	1時間11分	39分	1時間55分	3時間32分	37分	13分
	5万人未満	8時間30分	1時間02分	39分	1時間54分	3時間31分	35分	7分

注1 平均時間の算出方法は、項目ごとの該当ページを参照(p.6～17)(表1-1～3)。

注2 「学習」の平均時間は、「学校の宿題をする」「学校の宿題以外の勉強をする」の合計。「メディア」の平均時間は、「テレビやDVDを見る」「テレビゲームや携帯ゲーム機で遊ぶ」「携帯電話を使う」「パソコンを使う」「音楽を聴く」「本を読む」「マンガや雑誌を読む」「新聞を読む」の合計。いずれかが無回答・不明の場合は分析から除いているため、該当ページの数値と異なる(表1-1～3)。

注3 「習い事」「学習塾」「部活動」「アルバイト」の平均時間は、それらに「行っていない」「入っていない」「していない」と回答した人などを含めた全体の平均時間である(表1-1～3)。

表 1-2 中学生の生活時間(1日あたり・平均時間)

		睡眠	学習	外遊び・スポーツ	友だちと過ごす	メディア	学習塾	部活動
全体		7時間21分	1時間36分	19分	2時間28分	4時間45分	25分	1時間11分
学年別	中1生	7時間40分	1時間19分	22分	2時間28分	4時間17分	15分	1時間31分
	中2生	7時間22分	1時間18分	18分	2時間32分	4時間58分	20分	1時間33分
	中3生	7時間00分	2時間13分	18分	2時間25分	5時間03分	41分	26分
性別	男子	7時間31分	1時間31分	26分	2時間09分	4時間30分	27分	1時間12分
	女子	7時間13分	1時間41分	14分	2時間46分	4時間59分	24分	1時間10分
人口規模別	特別区・指定都市	7時間22分	1時間32分	21分	2時間36分	5時間06分	29分	1時間12分
	15万人以上	7時間18分	1時間36分	19分	2時間26分	4時間35分	27分	1時間13分
	5～15万人	7時間24分	1時間37分	20分	2時間23分	4時間44分	23分	1時間08分
	5万人未満	7時間22分	1時間40分	19分	2時間33分	4時間39分	20分	1時間13分

表 1-3 高校生の生活時間(1日あたり・平均時間)

		睡眠	学習	外遊び・スポーツ	友だちと過ごす	メディア	部活動	アルバイト
全体		6時間35分	1時間17分	12分	2時間41分	5時間24分	1時間24分	12分
学年別	高1生	6時間39分	1時間15分	12分	2時間40分	5時間12分	1時間27分	8分
	高2生	6時間32分	1時間18分	13分	2時間43分	5時間37分	1時間20分	16分
性別	男子	6時間42分	1時間13分	15分	2時間14分	5時間06分	1時間34分	9分
	女子	6時間30分	1時間20分	9分	3時間06分	5時間40分	1時間14分	14分
人口規模別	特別区・指定都市	6時間33分	1時間17分	13分	2時間28分	5時間28分	1時間21分	14分
	15万人以上	6時間34分	1時間18分	10分	2時間35分	5時間03分	1時間24分	9分
	5～15万人	6時間35分	1時間18分	14分	2時間51分	5時間37分	1時間24分	15分
	5万人未満	6時間38分	1時間12分	13分	2時間53分	5時間33分	1時間26分	10分

2. 基本的な生活時間

① 睡眠時間

睡眠時間は小学生約8時間半、高校生約6時間半

起床時刻は学校段階による差が小さいが、就寝時刻は学校段階が上がるにつれて、遅くなる。とくに夜12時以降に就寝する比率は、小学生3.2%、中学生29.7%、高校生58.5%である。睡眠時間は、学年が上がるにつれて短くなる。

Q

ふだん(学校がある日)の「朝、起きる時間」と「夜、寝る時間」は、だいたい何時ごろですか。

図2-1 就寝・起床の平均時刻と睡眠の平均時間

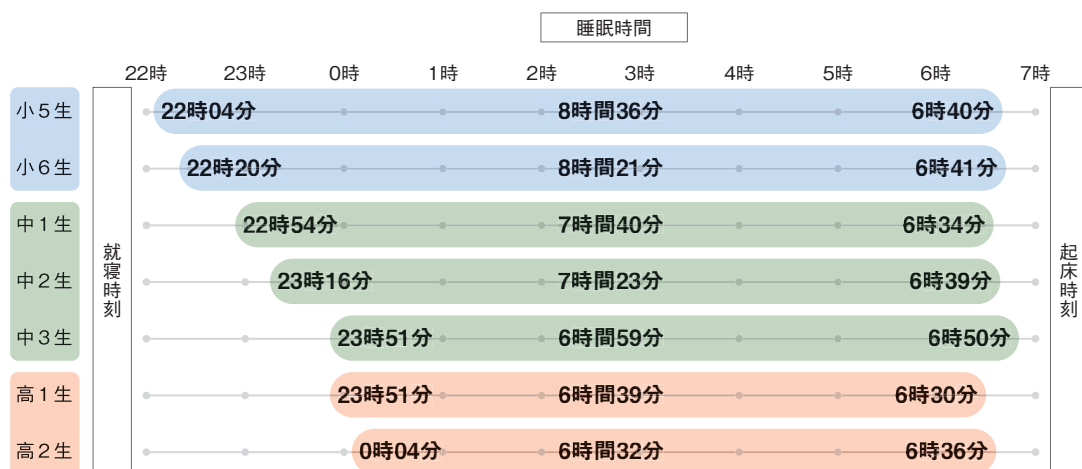
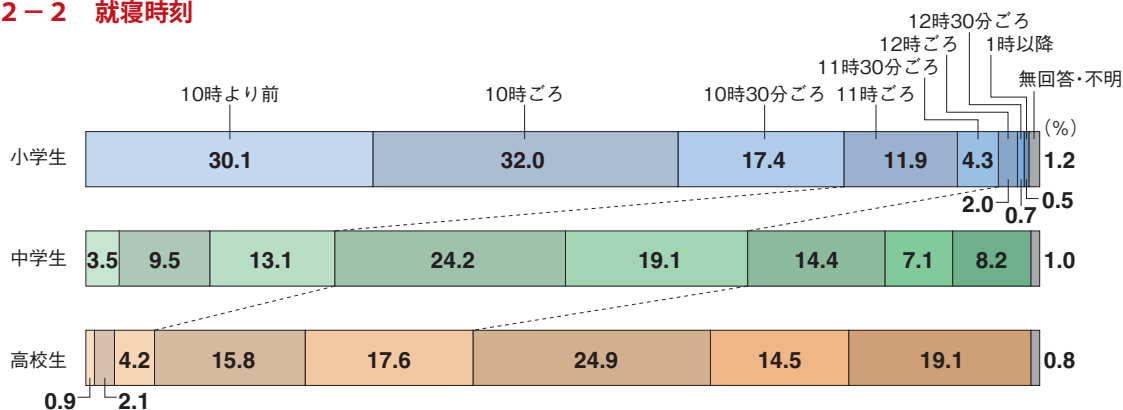


図2-2 就寝時刻



注1 就寝の平均時刻は、「10時より前」を「21時30分」、「2時よりあと」を「2時30分」、起床の平均時刻は、「6時より前」を「5時30分」、「8時よりあと」を「8時30分」のように置き換えて、就寝または起床の時刻が無回答・不明の場合を除いて算出した。睡眠の平均時間は、就寝時刻から起床時刻までを計算した(図2-1)。

注2 「1時以降」は「1時ごろ」～「2時よりあと」の% (図2-2)。

② 食事や休息の時間

中・高校生は昼寝などの休息で睡眠不足を補っている

食事の平均時間は、朝食が15分前後、夕食が30分前後と、学校段階による差が小さい。一方、昼寝は、小学生の9割が「しない」のに対して、中・高校生の1割が「1時間以上」と回答しており、中・高校生の平均時間は約15分である。また、ぼーっとする時間は平均して、小学生が約15分、中・高校生が30分前後。中・高校生は睡眠不足を日中の休息の時間で補っているようである。

Q ふだん（学校がある日）、次のことを、1日にどれくらいの時間やっていますか。

図2-3 朝食の時間

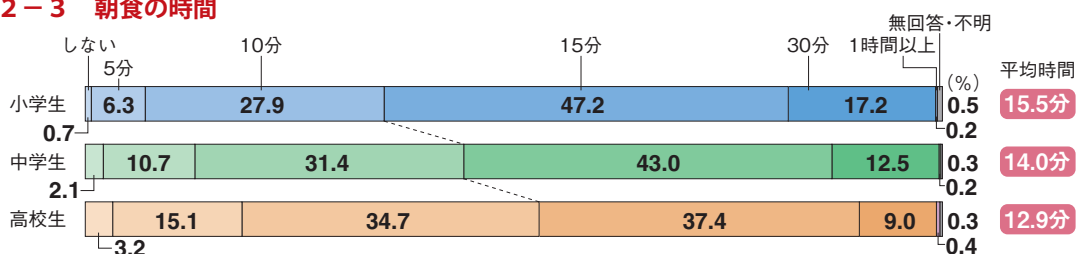


図2-4 夕食の時間

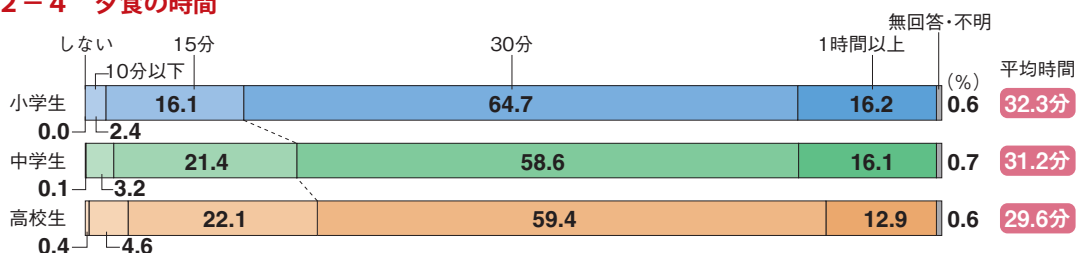


図2-5 昼寝の時間

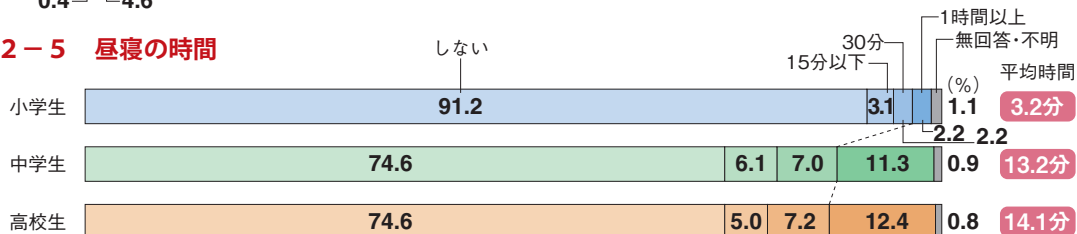
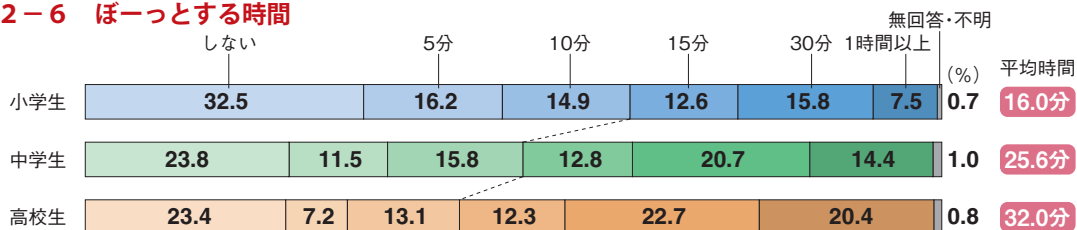


図2-6 ぼーっとする時間



注1 「10分以下」は、「5分」+「10分」の%、「15分以下」は、「5分」~「15分」の%、「1時間以上」は、「1時間」~「4時間より多い」の% (図2-3~6)。

注2 平均時間は、「しない」を0分、「1時間」を240分、「4時間より多い」を300分のように置き換えて、無回答・不明を除いて算出した (図2-3~6)。

2. 基本的な生活時間

③ 一学校の宿題をする時間

都市部の小・中学生は、宿題をする時間が短い

学校の宿題の平均時間は、学年による違いが小さい（33.5分～43.3分）。しかし、学校の宿題を「しない」の比率をみると、小学生が2%以下、中学生が1割前後であるのに対して、高校生は約2割と高い。一方で、高校生の4割は、「1時間以上」宿題をすると回答しており、高校生の宿題の時間は二極化している。また、人口規模が小さい地域ほど、宿題の平均時間は長い。

Q

ふだん（学校がある日）、次のことを、1日にどれくらいの時間やっていますか。

図2-7 学校の宿題をする時間

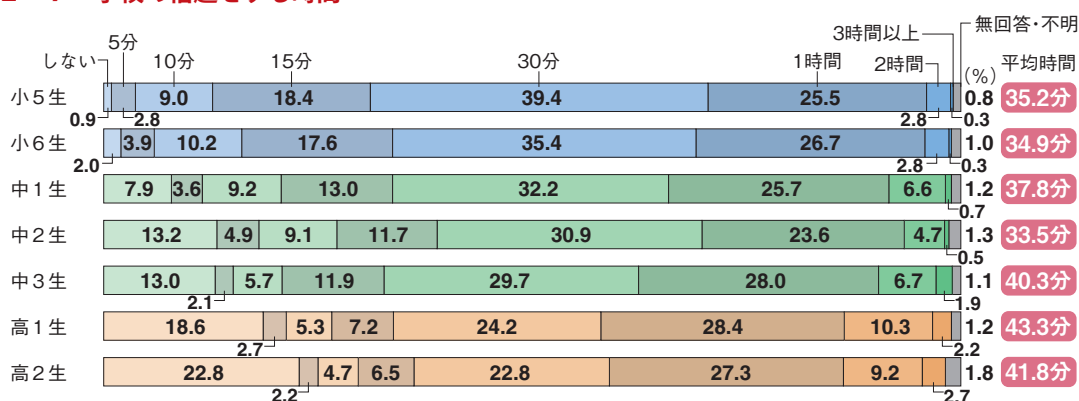
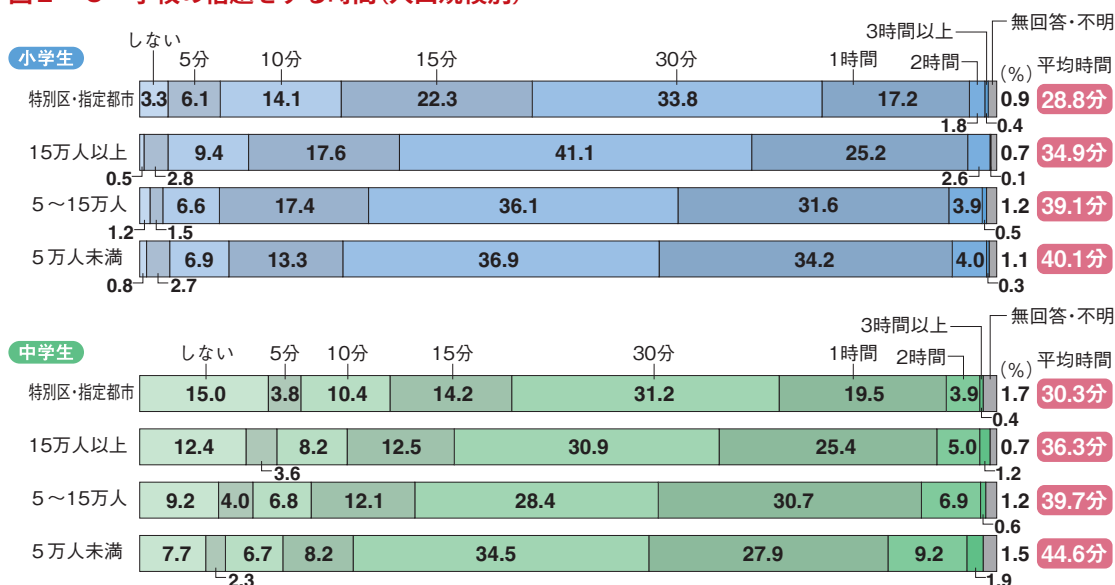


図2-8 学校の宿題をする時間(人口規模別)



注1 「3時間以上」は、「3時間」～「4時間より多い」の%（図2-7、8）。

注2 平均時間は、「しない」を0分、「4時間」を240分、「4時間より多い」を300分のように置き換えて、無回答・不明を除いて算出した（図2-7、8）。

④ 一宿題以外の勉強の時間

都市部の小・中学生は、学校の宿題以外の勉強時間が長い

中3生は、学校の宿題以外の勉強を「しない」という回答が9.5%で、7学年のなかでもっとも少ないが、高校生では「しない」が4割を超える。平均時間をみると、小5生から中2生までは、少しずつ時間が増えるが(32.1分→44.8分)、中3生で急増し(92.5分)、高校生で再び30分台に減る。また、人口規模の大きい地域ほど、学校の宿題以外の勉強をする時間が長い。

Q ふだん(学校がある日)、次のことを、1日にどれくらいの時間やっていますか。

図2-9 学校の宿題以外の勉強をする時間

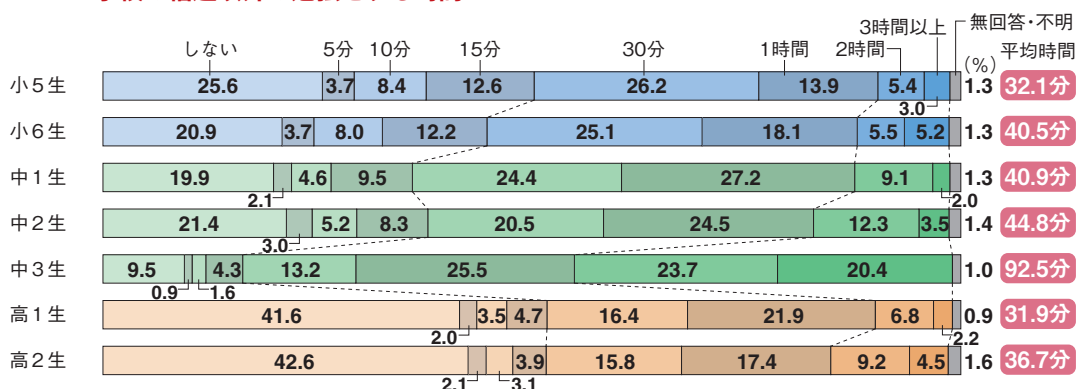
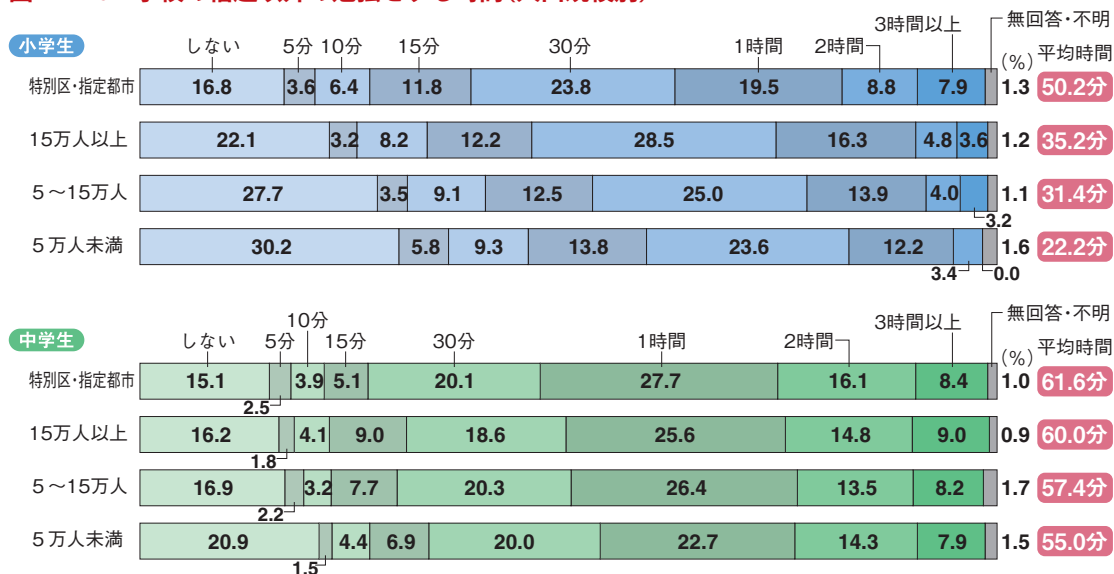


図2-10 学校の宿題以外の勉強をする時間(人口規模別)



注1 「3時間以上」は、「3時間」～「4時間より多い」の% (図2-9、10)。

注2 平均時間は、「しない」を0分、「4時間」を240分、「4時間より多い」を300分のように置き換えて、無回答・不明を除いて算出した(図2-9、10)。

2. 基本的な生活時間

⑤ 外での遊び・スポーツの時間

平日の外遊び・スポーツの時間は、小学生45分、高校生12分

平日、習い事や部活動以外に外遊びやスポーツをしている子どもは、小学生では7割いるが、中学生は3割、高校生は2割にとどまる。外遊び・スポーツの平均時間は、小学生が45分、中学生が19分、高校生が12分である。また性別でみると、どの学校段階でも、女子のほうが男子に比べて、外遊びやスポーツをする比率が10ポイント以上低く、平均時間も短い。

Q

ふだん（学校がある日）、次のことを、1日にどれくらいの時間やっていますか。

図2-11 外での遊び・スポーツの時間

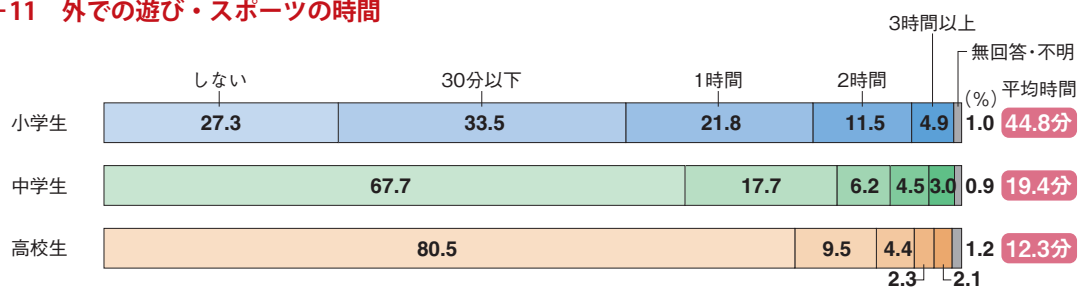
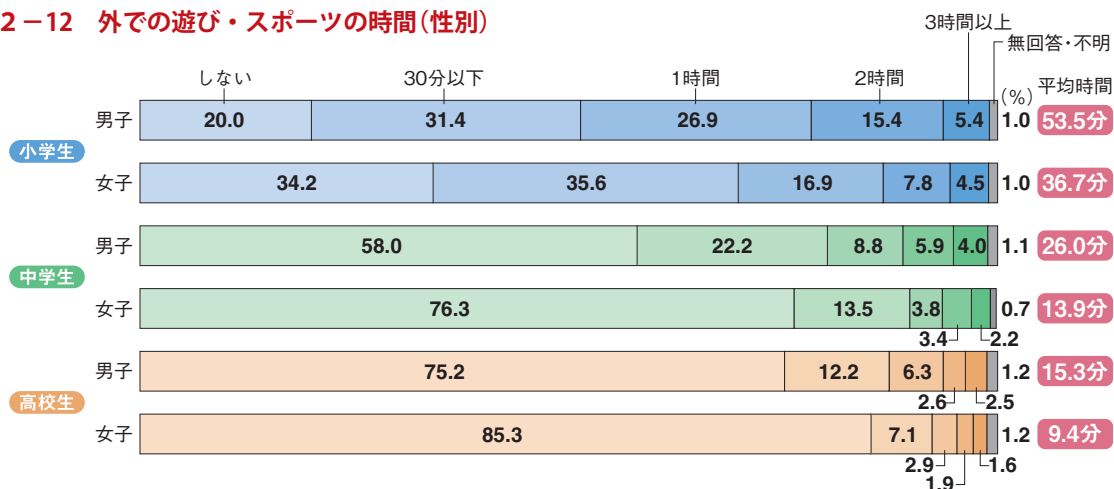


図2-12 外での遊び・スポーツの時間(性別)



注1 「外での遊び・スポーツの時間」には、習い事・部活動の時間は含まれていない(図2-11、12)。

注2 「30分以下」は、「5分」～「30分」の%、「3時間以上」は、「3時間」～「4時間より多い」の% (図2-11、12)。

注3 平均時間は、「しない」を0分、「4時間」を240分、「4時間より多い」を300分のように置き換えて、無回答・不明を除いて算出した(図2-11、12)。

⑥一人と過ごす時間

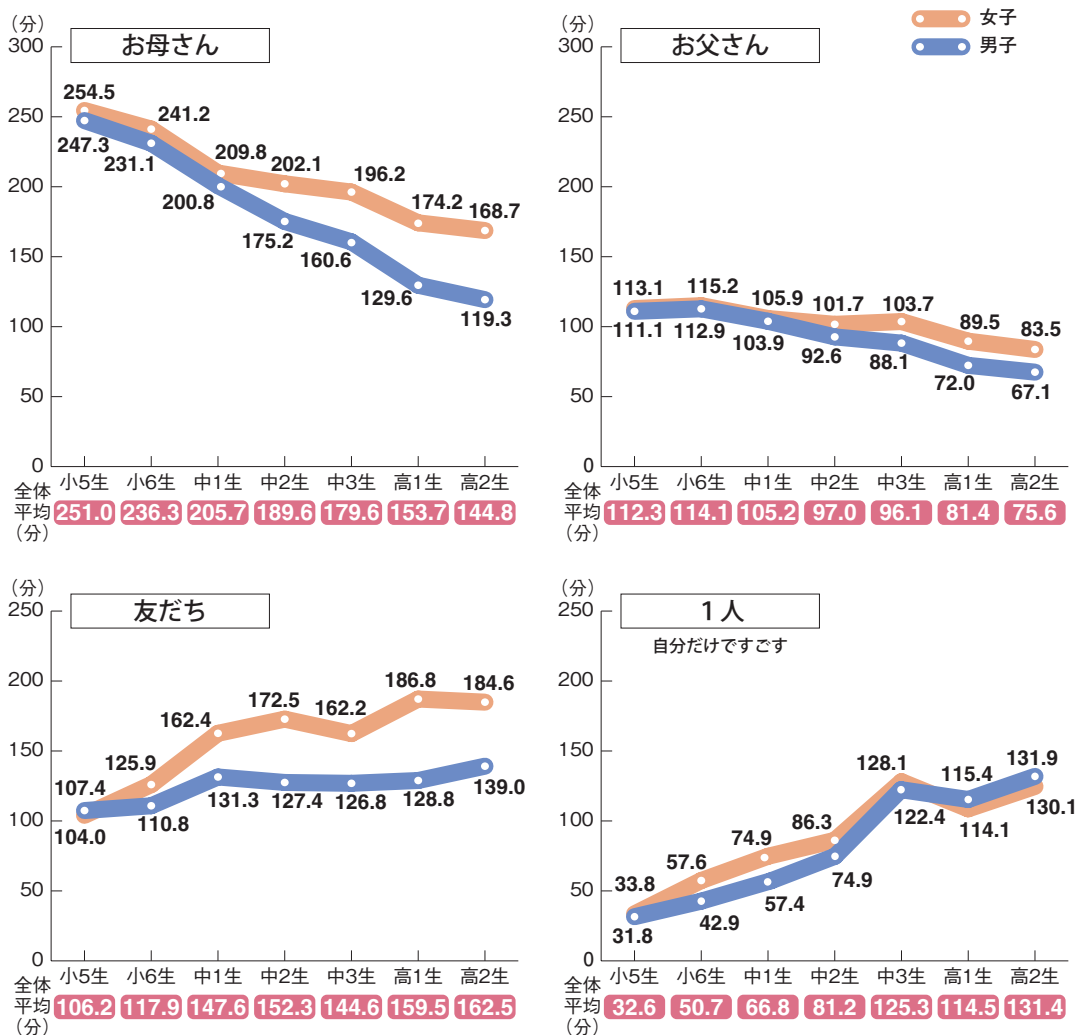
学年が上がるにつれて、友だちとの時間や1人の時間が増加する

小学生は、平日、母親と約4時間、父親や友だちと約2時間をいっしょにすごしており、1人ですごしている時間は短い。一方、高校生は、友だちと約2時間半、1人で約2時間を過ごし、家族以外との時間を多く持っている。性別でみると、女子は男子に比べて、母親や友だちと過ごす時間が長く、中・高校生で差が広がる。

Q

ふだん（学校がある日）、次の人と1日にどれくらいの時間をすごしていますか。

図2-13 人と過ごす時間（性別・平均時間）



注1 「人と過ごす時間」には、学校の授業の時間や睡眠時間は含まれていない。

注2 平均時間は、「ほとんどない」を0分、「4時間」を240分、「4時間より多い」を300分のように置き換えて、「いない・一緒に暮らしていない」と無回答・不明を除いて算出した。

2. 基本的な生活時間

⑦ メディアの時間

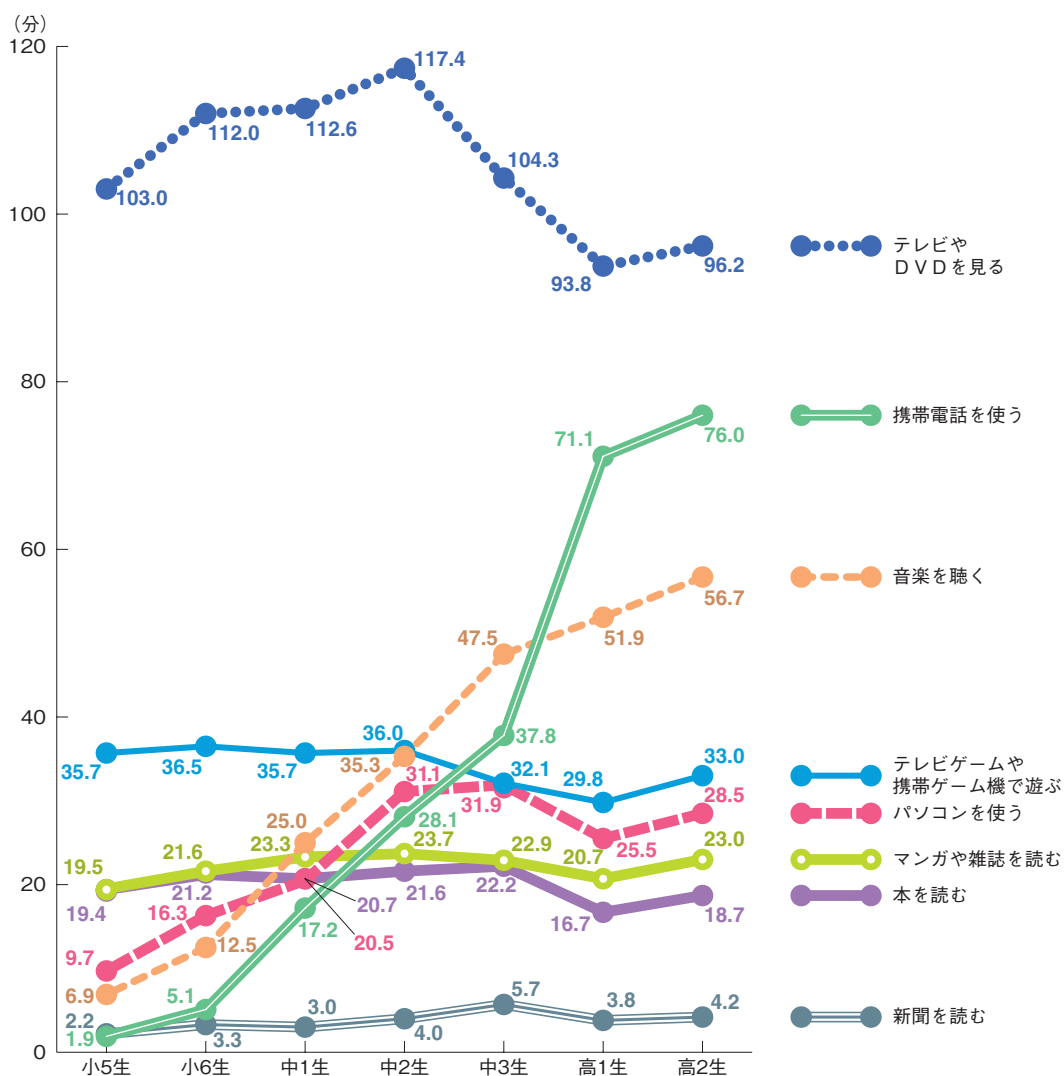
中・高校生は携帯電話や音楽の時間が増加する

メディア利用の平均時間をみると、すべての学年で、テレビ・DVDの時間が90分以上と最も長い。携帯電話、音楽、パソコンの時間は、小学生では20分以下だが、中・高校生になると長くなる。一方、ゲームや読み物（マンガ・雑誌、本、新聞）の時間は学年による変化が少ない。

Q

ふだん（学校がある日）、次のことを、1日にどれくらいやっていますか。

図2-14 メディアの利用時間(平均時間)



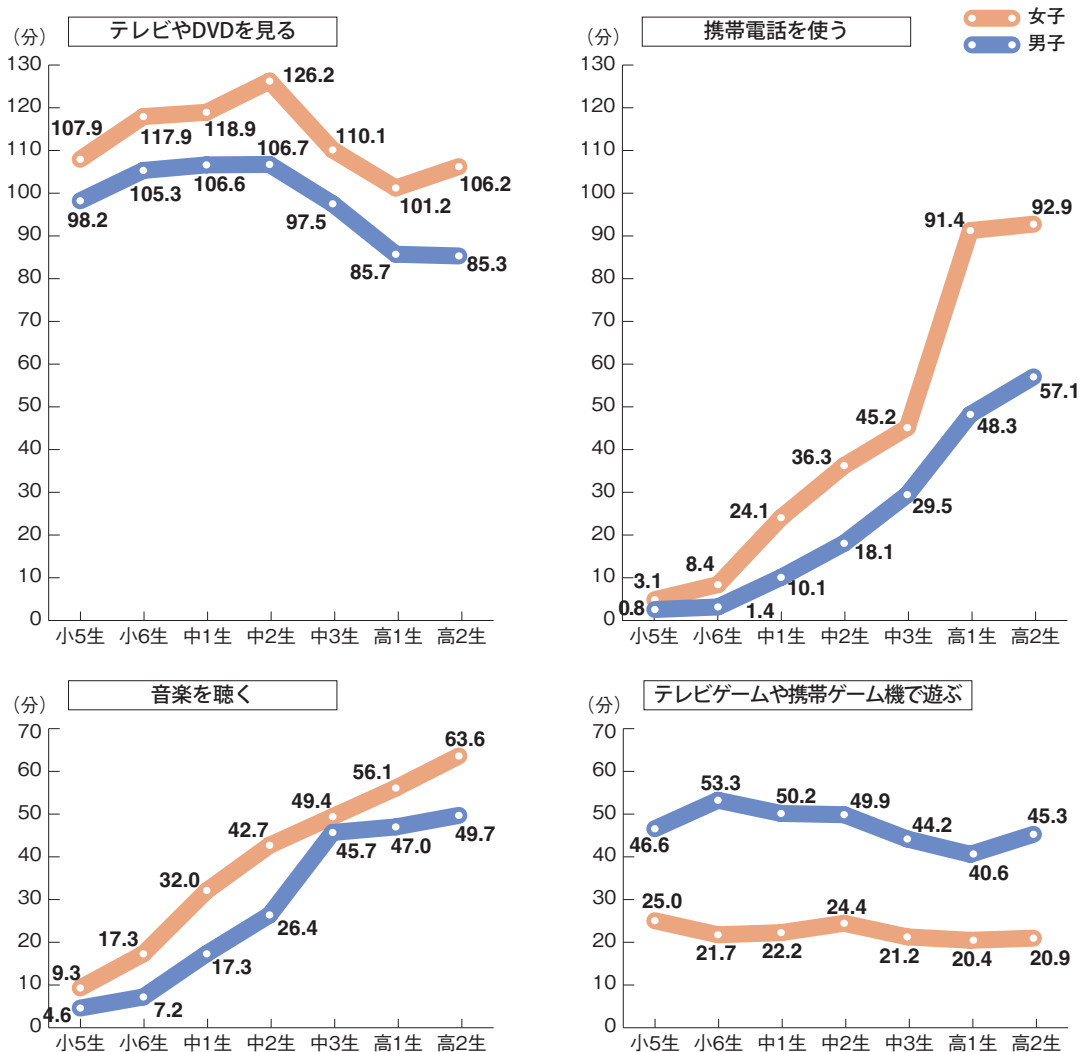
男子はゲーム、女子はテレビや携帯電話の時間が長い

すべての学年において、テレビ・DVDの平均時間は女子のほうが男子に比べて長く、音楽の時間も女子のほうが長い傾向にある。また、携帯電話の時間は、小学生は性別による差が小さいが、中・高校生になるにつれて女子の利用時間が伸び、男子との差が広がる。一方、ゲームの時間は、男子のほうが長く、どの学年でも女子の2倍程度である。

Q

ふだん（学校がある日）、次のことを、1日にどれくらいやっていますか。

図2-15 メディアの利用時間（性別・平均時間）



注 平均時間は、「しない」を0分、「4時間」を240分、「4時間より多い」を300分のように置き換えて、無回答・不明を除いて算出した(図2-14、15)。

3. 小・中・高校生の特徴的な生活時間

① 一習い事の時間

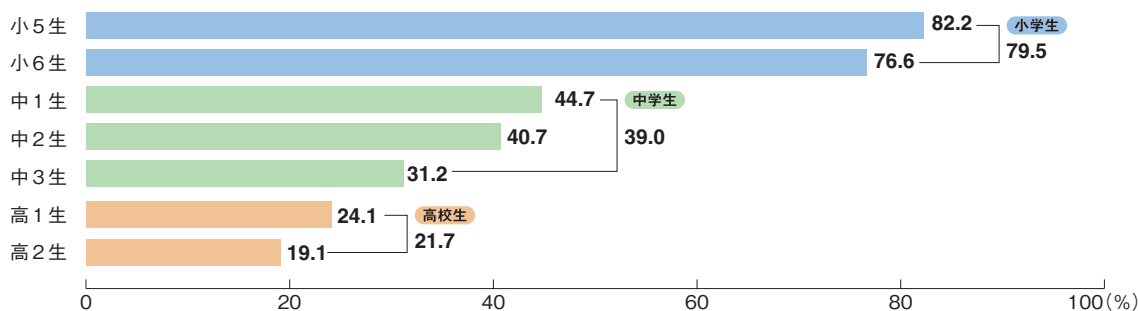
小学生の8割が習い事に行っており、平均時間も長い

習い事の種類をみると、どの学校段階でも「スポーツ」がトップで、小学生の5割、中・高校生の約1割が行っている。1日あたりの平均時間は、全体でみると、習い事に行っている人の比率の減少とともに下がり、小学生が30分程度、中1生と中2生が15分程度、中3生から高2生が10分以下となる。習い事は小学生の放課後生活の特徴ともいえる。

Q

あなたは今、習い事や学校外のクラブに行っていますか。

図3-1 習い事に行っている比率



Q

あなたが行っているものすべてに○をつけてください。

図3-2 習い事の種類

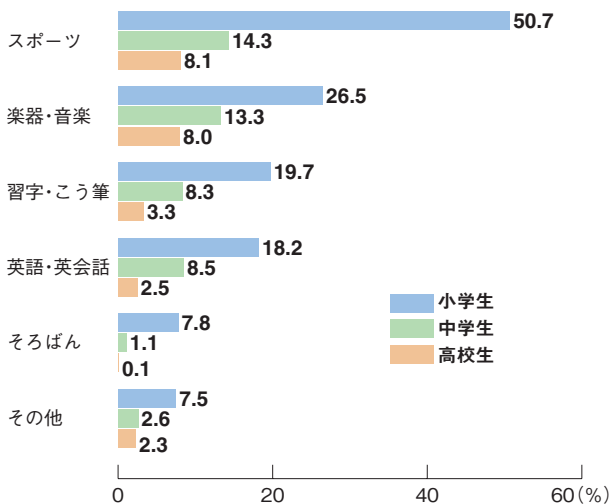
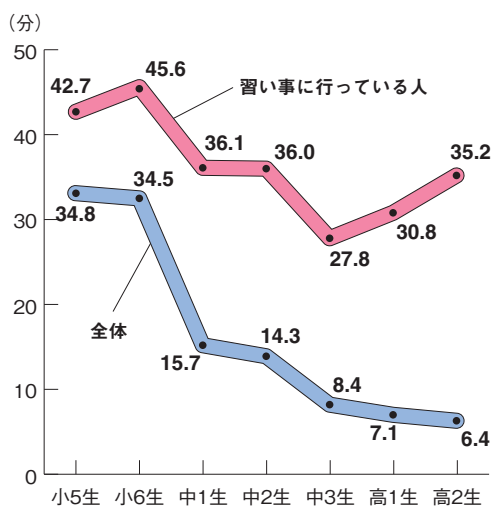


図3-3 習い事の時間(1日あたり・平均時間)



注1 習い事や学校外のクラブに「行っている」の% (図3-1)。

注2 複数回答。習い事や学校外のクラブに「行っていない」と回答した人も含めた全員を母数としている(図3-2)。

注3 習い事に行っている人の平均時間は、1回の時間(1回にどれくらいの時間やっていますか)に、1週間の回数(1週間に何回くらい行っていますか)をかけて7で割ったもの。1回の時間または回数が無回答・不明の場合は分析から除いている。全体の平均時間は、習い事や学校外のクラブに「行っていない」と回答した人を0分として含め、算出したもの(図3-3)。

② 学習塾の時間

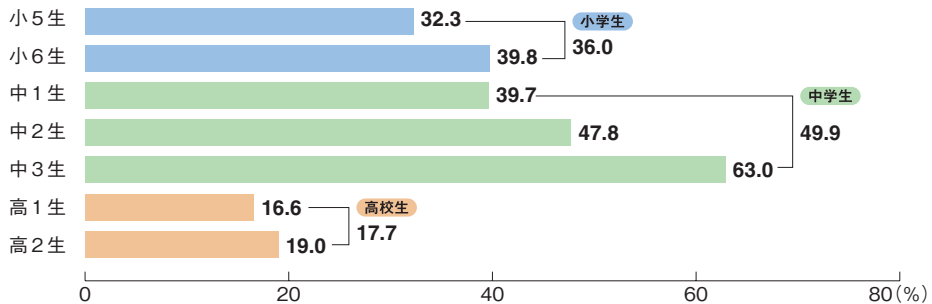
中3生の通塾率は6割を超える。通塾時間は中3生に次いで小6生が長い。

6割の中3生が通塾しており、そのうちの6割が週3回以上学習塾に行っている。平均して、中3生全体では1日41.2分学習塾で勉強している。中3生はもっとも学習塾を利用している。また小6生に注目すると、週の通塾回数が多い。通塾している人の平均時間をみても、トップの中3生に次ぎ、2位(54.2分)となる。中学受験の影響があると推測される。

Q

あなたは今、学習塾に行っていますか。

図3-4 通塾率



Q

学習塾には、1週間に何回くらい行っていますか。

図3-5 1週間の通塾回数

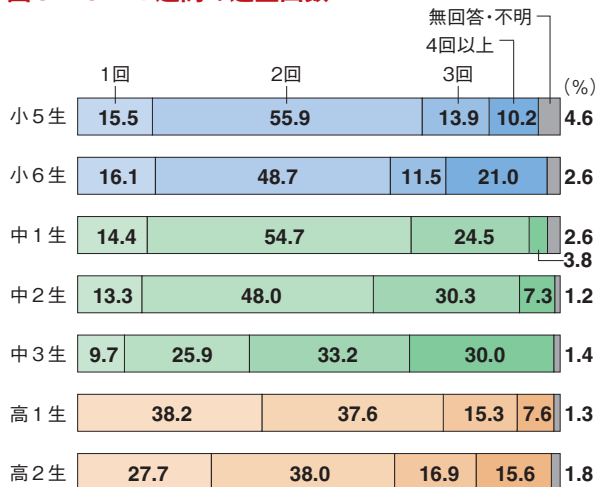
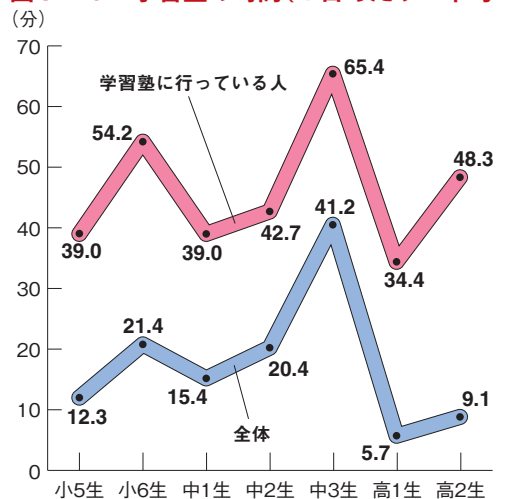


図3-6 学習塾の時間(1日あたり・平均時間)



注1 学習塾に「行っている」の% (図3-4)。

注2 学習塾に「行っている」と回答した人を母数にしている (図3-5)。

注3 「4回以上」は、「4回」~「7回以上」の% (図3-5)。

注4 学習塾に行っている人の平均時間は、1回の時間(1回にどれくらいの時間、勉強していますか)に、1週間の回数(1週間に何回くらい行っていますか)をかけて7で割ったもの。1回の時間または回数が無回答・不明の場合は分析から除いている。全体の平均時間は、学習塾に「行っていない」と回答した人を0分として含め、算出したもの(図3-6)。

3. 小・中・高校生の特徴的な生活時間

③ 一部活動の時間

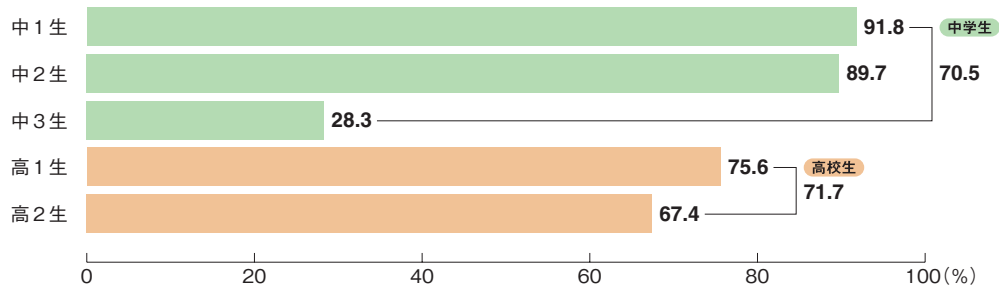
部活動に加入している中・高校生は、1時間半以上を活動にあてる

部活動の加入率は、受験期の中3生を除くと、中1生、中2生とも9割と高い。その後、学年が上がるにつれて部活動の加入率は低くなり、高1生は7割台、高2生は6割台である。しかし、部活動に加入している人だけでみると、1日あたりの部活動の平均時間は、中学生が100分前後、高校生が約120分。活動時間は、高校生のほうが長い傾向にある。

Q

部活動に入っていますか。

図3-7 部活動の加入率



Q

どんな部活動に入っていますか。

図3-8 入っている部活動の種類

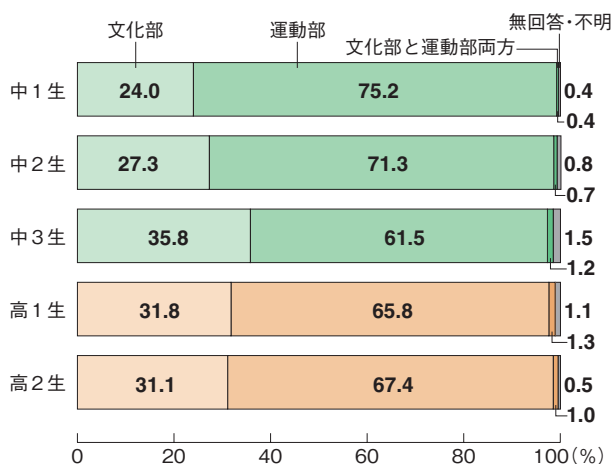
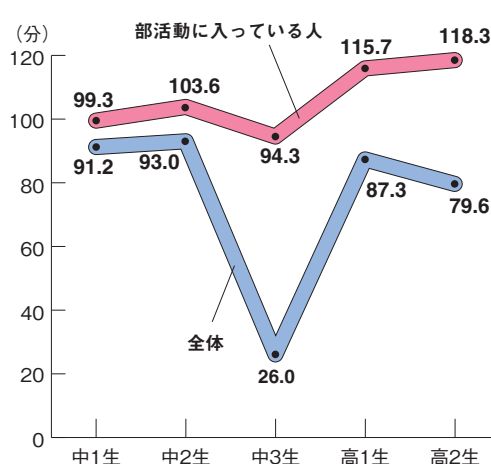


図3-9 部活動の時間(1日あたり・平均時間)



注1 中・高校生のみになぞねた(図3-7~9)。

注2 部活動に「入っている」の% (図3-7)。

注3 部活動に「入っている」と回答した人を母数にしている(図3-8)。

注4 部活動に入っている人の平均時間は、1日の時間(1日にどれくらいの時間やっていますか)に、1週間の回数(1週間に何日くらい参加していますか)をかけて7で割ったもの。1回の時間または回数が無回答・不明の場合は分析から除いている。全体の平均時間は、部活動に「入っていない」と回答した人を0分として含め、算出したもの(図3-9)。

④ アルバイトの時間

アルバイトをしている比率は女子のほうが高いが、平均時間は男子が長い

定期的にアルバイトをしている人は、高1生が8.0%、高2生が15.7%と比率は低い。しかし、アルバイトをしている人だけでみると、アルバイトの平均時間は1日約100分で、部活動の長さには匹敵する。性別でみると、定期的にアルバイトをしている比率は、女子のほうが高く、高2生では約10ポイントの差がある。しかし、アルバイトの平均時間は、高1生、高2生とも、男子のほうが15分程度長い。

Q 現在、アルバイトをしていますか。

図3-10 定期的にアルバイトをしている比率

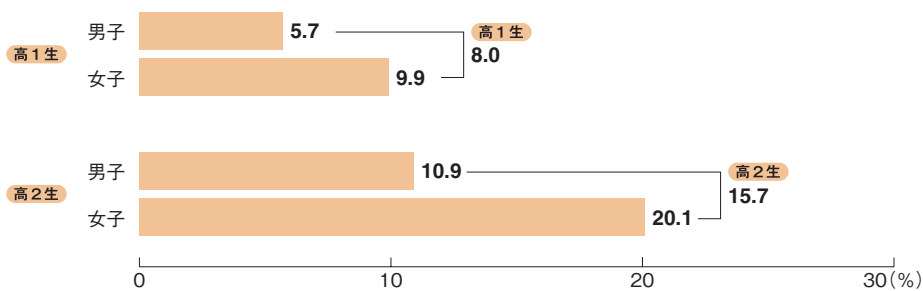
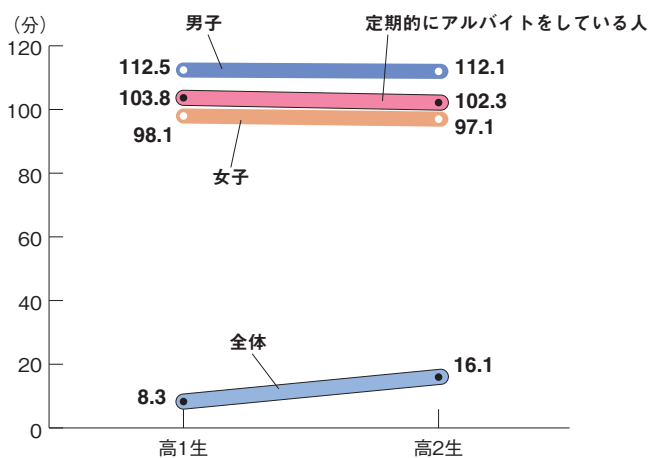


図3-11 アルバイトの時間(性別・1日あたり・平均時間)



注1 高校生のみならずねた(図3-10、11)。

注2 「定期的にアルバイトをしている」の% (図3-10)。

注3 定期的にアルバイトをしている人の平均時間は、1日の時間(1日に何時間くらい仕事をしていますか)に、1週間の回数(1週間に何日くらいしていますか)をかけて7で割ったもの。1日の時間または回数が無回答・不明の場合は分析から除いている。全体の平均時間は、「短期のアルバイトをしている」、アルバイトを「していない」と回答した人を0分として含め、算出したもの(図3-11)。

4. 時間に関する意識

① 増やしたい時間

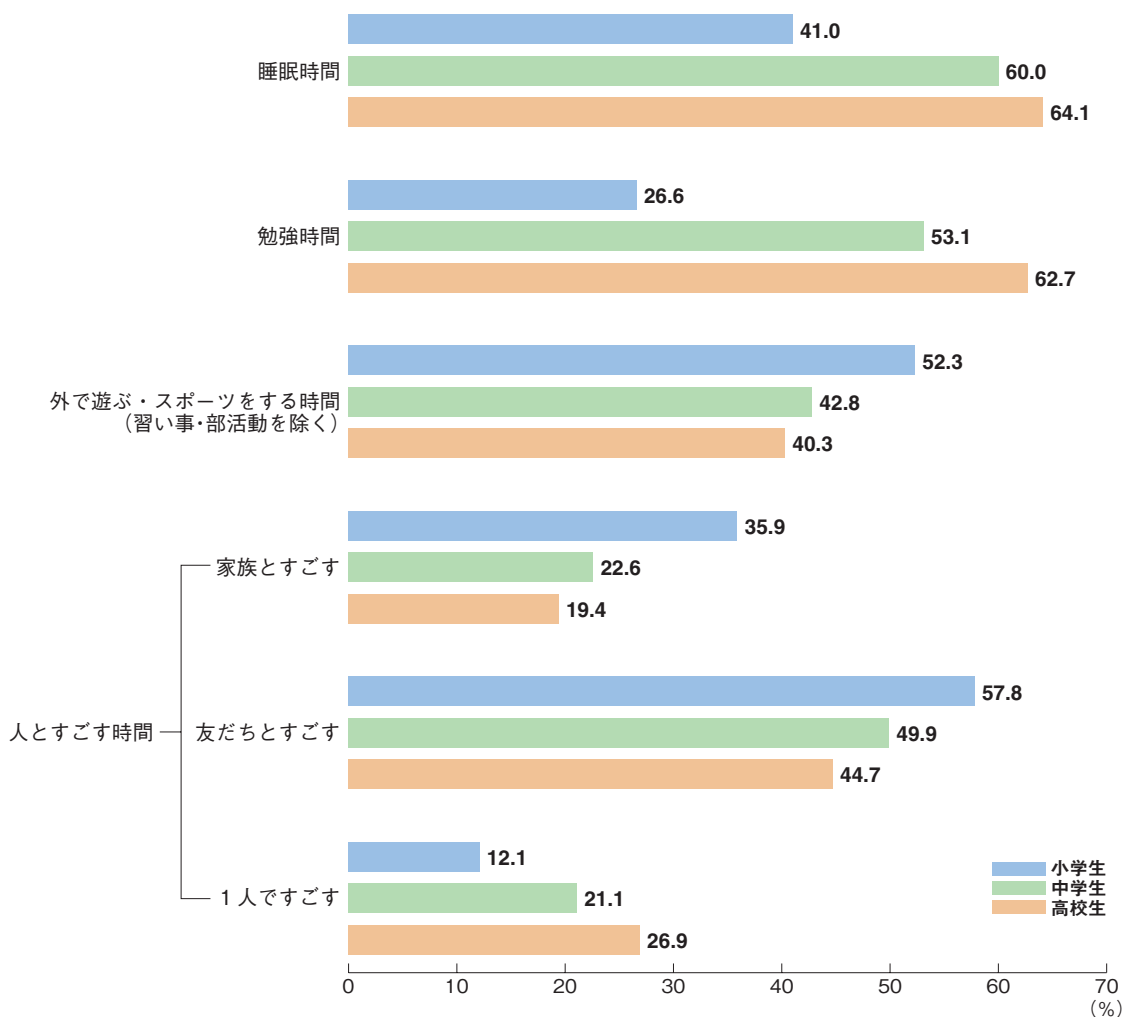
6割以上の高校生が、睡眠時間も勉強時間も増やしたい

「増やしたい」と回答する割合が高いのは、小学生は、「友だちとすごす」時間（約6割）、「外で遊ぶ・スポーツをする時間」（約5割）であり、中・高校生では、「睡眠時間」（約6割）、「勉強時間」（中学生約5割、高校生約6割）である。また、学校段階が上がると、「家族とすごす」時間や「1人ですごす」時間を「増やしたい」割合が減り、「1人ですごす」時間を「増やしたい」割合が増加する。

Q

次のような時間を増やしたいと思いますか。

図4-1 増やしたい時間



注 「増やしたい」の%。

② 時間のすごし方

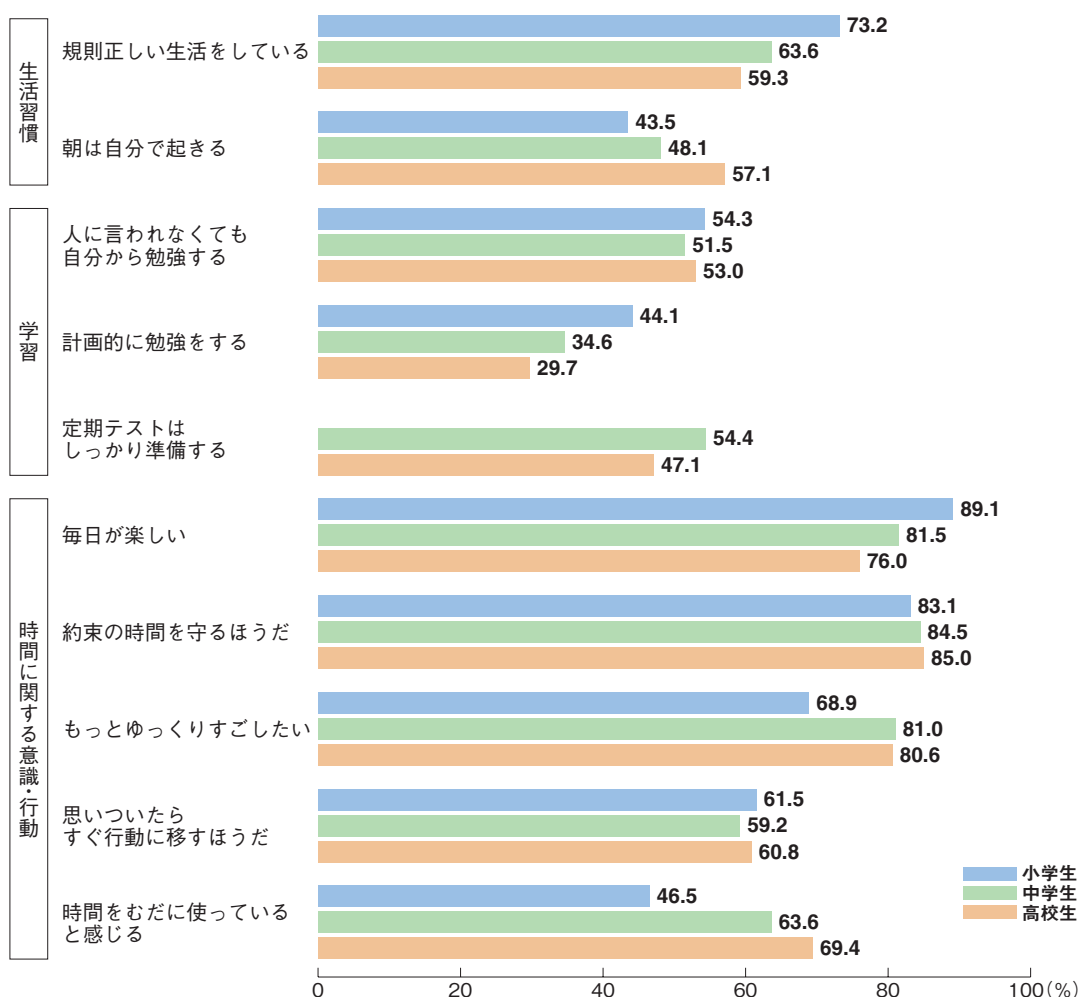
7～8割の子どもが「もっとゆっくりすごしたい」と感じている

「毎日が楽しい」と感じているのは、小学生の9割、中・高校生の8割。また、「約束の時間を守るほうだ」は小・中・高校生の8割以上が肯定している。一方で、「もっとゆっくりすごしたい」「時間をむだに使っていると感じる」は、小学生から中学生になると「あてはまる」（とても+わりと）と回答する比率が10ポイント以上増加する。忙しく、時間をうまく使えなくなる中学生の様子がうかがえる。

Q

あなた自身について、次のことはどれくらいあてはまりますか。

図4-2 時間のすごし方



注1 「定期テストはしっかり準備する」は、中・高校生のみにたずねた。

注2 「とてもあてはまる」+「わりとあてはまる」の%。

4. 時間に関する意識

③ 一時間の使い方の点数(自己評価)

小学生は約70点、中学生は約60点、高校生は約50点

時間の使い方の点数(自己評価)をたずねたところ、比較的高い80点以上をつけたのは、小学生4割、中学生2割、高校生1割。学校段階が上がるほど平均点が下がり、時間の使い方の満足度は低下している。また平均点は小6生(68.4点)から中1生(60.3点)の変化が最も大きい。中学生は、時間の使い方が大きく変化する時期と考えられる。

Q

あなたの日ごろの時間の使い方は、100点満点で、だいたい何点ぐらいだと思いますか。

図4-3 時間の使い方の点数(自己評価)

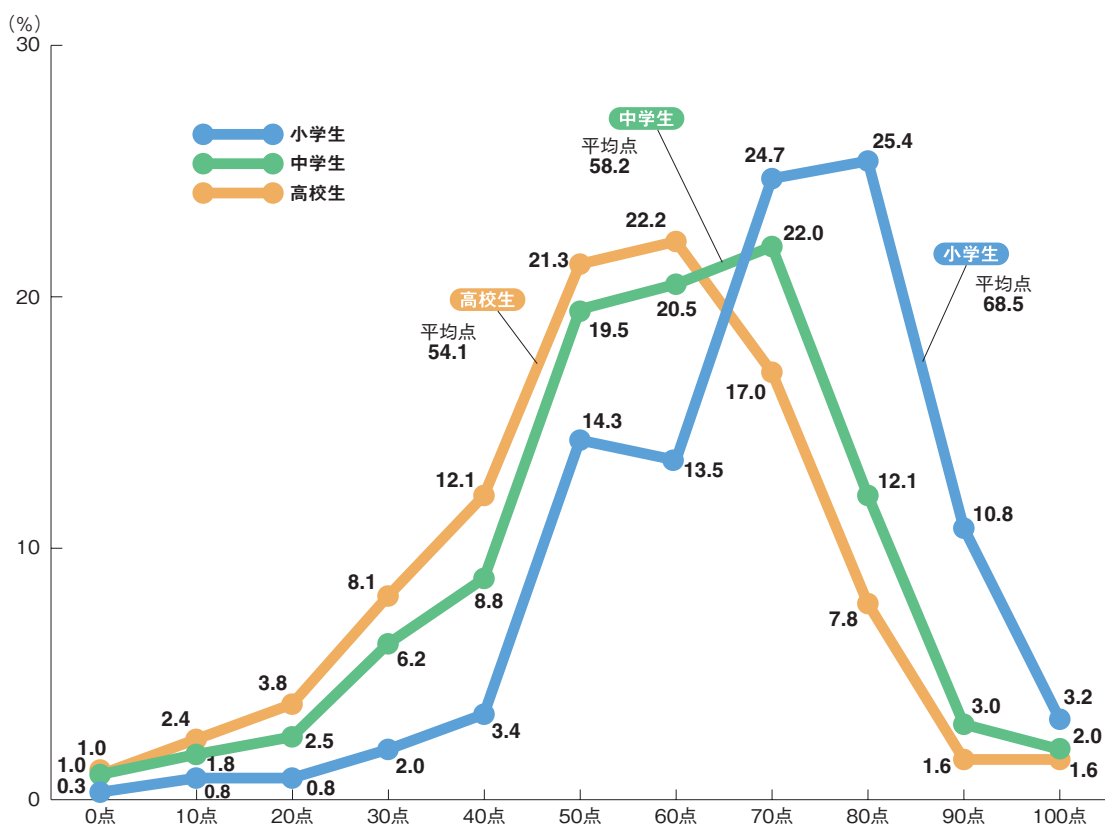


表4-1 時間の使い方の点数(学年別・平均点)

							(点)
小5生	小6生	中1生	中2生	中3生	高1生	高2生	
68.6	68.4	60.3	58.6	55.7	54.8	53.3	

注1 無回答・不明は省略している(図4-3)。

注2 平均点は、無回答・不明を除いて算出した(図4-3、表4-1)。

④ 一心や身体の疲れ

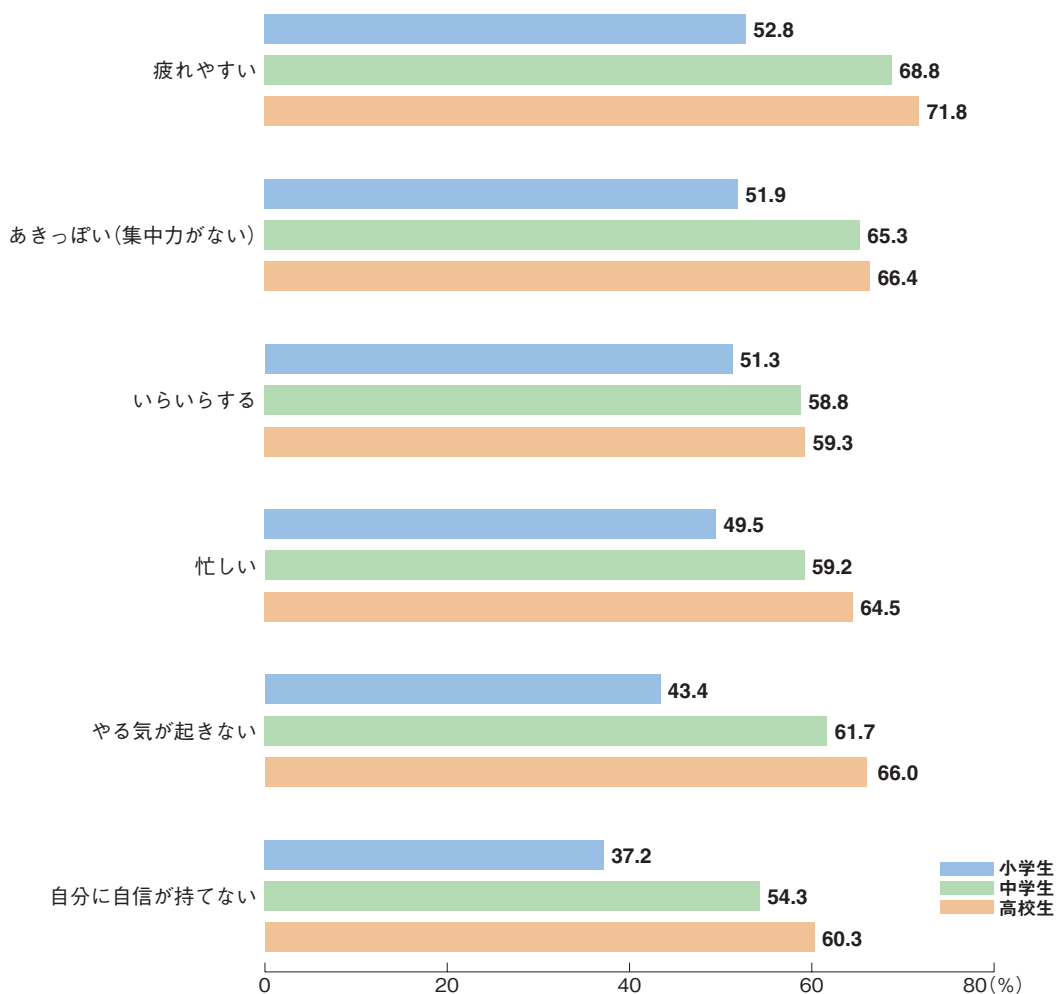
多忙感・ストレスは中学生になると急増する

学校段階が上がるにつれて、多忙感やストレスを「感じる」（とても＋わりと）という回答が増加する。とくに小学生から中学生になると急増する項目が多く、「疲れやすい」「あきっぽい（集中力がない）」「やる気が起きない」「自分に自信が持てない」の4項目でそれぞれ10ポイント以上増えている。

Q

あなたは次のように感じることはありませんか。

図4-4 心や身体の疲れ



注 「とても感じる」＋「わりと感じる」の%。

5. 将来の生活

① 将来について

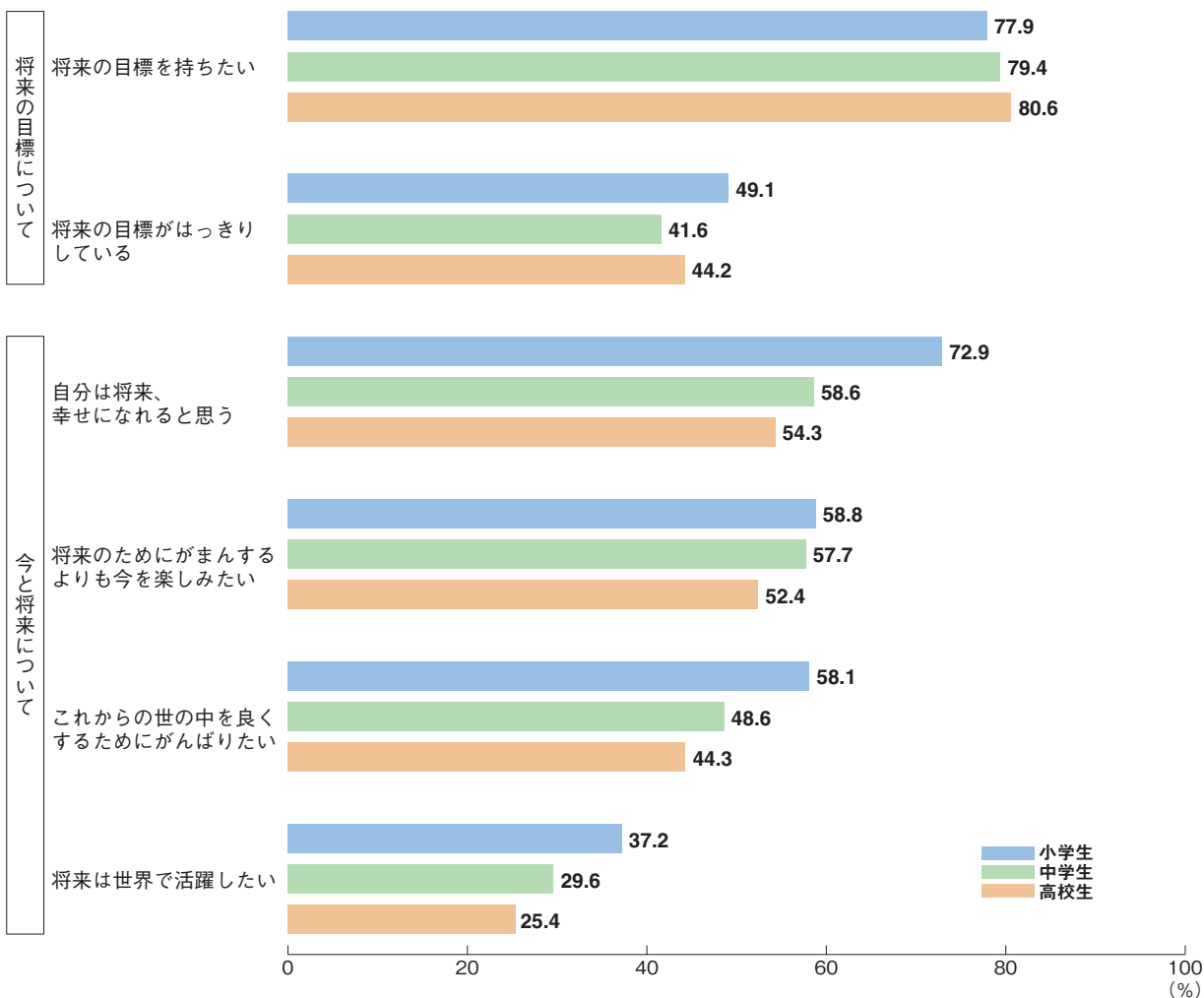
半数以上が「将来のためにがまんするよりも今を楽しみたい」

「自分は将来、幸せになれると思う」「これからの世の中を良くするためにがんばりたい」など、将来への希望や夢を持っている子どもの比率は、小学生のほうが高く、学校段階が上がるにつれて低下する。また、どの学校段階でも、半数以上の子どもが、「将来のためにがまんするよりも今を楽しみたい」と考えている。

Q

あなた自身について、次のことはどれくらいあてはまりますか。

図5-1 自分の将来について思うこと



注 「とてもあてはまる」+「わりとあてはまる」の%。

② 日本社会について

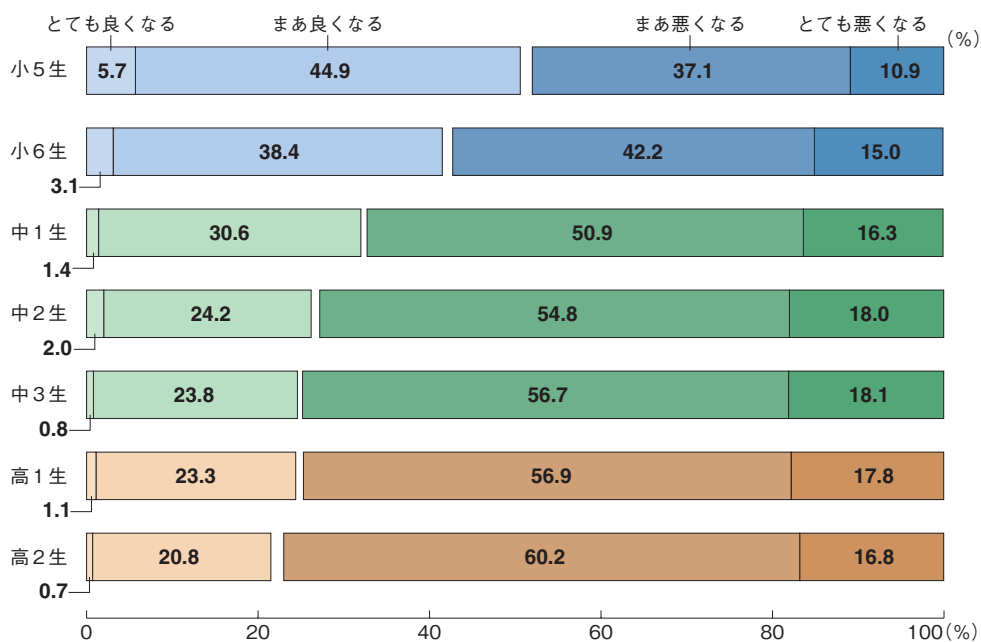
中・高校生の7割前後が、日本社会が「悪くなる」と予測

これからの日本社会が「良くなる」(とても+まあ)と考えている割合は、小5生は約半数であるが、小6生は4割、中1生は3割と下がり、中2生~高2生では2割台と低い。また、「とても良くなる」の比率は、どの学校段階でも6%未満であるのに対して、「とても悪くなる」は小5生で1割、中・高校生では約2割と、子どもたちはネガティブな予測をしている。

Q

これからの日本社会が、良くなると思いますか、悪くなると思いますか。

図5-2 これからの日本社会について



注 無回答・不明を省略しているため、数値を合計しても100%にはならない。

放課後の生活時間調査

調査企画・分析メンバー

- 明石 要一 (千葉大学教授)
- 都筑 学 (中央大学教授)
- 佐藤 香 (東京大学社会科学研究所准教授)
- 西島 央 (首都大学東京准教授)
- 木村 治生 (Benesse教育研究開発センター教育調査課長)
- 邵 勤風 (Benesse教育研究開発センター研究員)
- 橋本 尚美 (Benesse教育研究開発センター研究員)
- 岡部 悟志 (Benesse教育研究開発センター研究員)
- 野澤亜伊子 (Benesse教育研究開発センター研究員)
- 直井多美子 (Benesse教育研究開発センター研究員)

※所属・肩書きは、刊行時のものです。

★『放課後の生活時間調査報告書』は2009年9月刊行予定です。

本調査の詳細な分析をまとめた報告書を2009年9月に刊行する予定です(120頁程度、頒価1,000円)。報告書をご希望の方は、Benesse教育研究開発センターのWEBサイトの「調査・研究データ → 報告書の申し込み」より、もしくはお電話で直接お申し込みください。発刊次第お届けいたします。なお、この報告書は、書店ではお求めになれません。

Benesse教育研究開発センターで実施している各種調査結果は、<http://benesse.jp/berd/>または で検索できます。